

令和6年度  
関西広域連合 登録販売者試験問題

令和6年8月31日（土）後半

人体の働きと医薬品	20問
薬事に関する法規と制度	20問
医薬品の適正使用と安全対策	20問

注 意 事 項

試験開始の指示があるまで、試験問題を開かないでください。

- 1 試験時間は、120分です。
- 2 解答用紙（マークシート）は、試験問題と別に配布します。
- 3 解答用紙に記入されている受験番号が受験票記載の受験番号と一致しているかを確認し、一致していれば解答用紙に氏名、フリガナを正確に記入してください。
- 4 解答の方法は、問題の選択肢から正解と思うものを1つ選び、解答用紙の解答欄の数字をマークしてください。複数をマークしている場合は、不正解となります。
- 5 マークの方法は、解答用紙に記載してある《注意事項》を遵守してください。
- 6 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
- 7 試験問題中の成分名、人名などの表記そのものには誤りはないものとして解答してください。
- 8 試験問題文中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「法」と省略して記載しています。
- 9 問題の内容については、質問を受け付けません。
- 10 受験票と試験問題は、持ち帰ってください。

試験会場では静粛にし、試験監督者の指示に従ってください。  
不正行為や試験監督者の指示に従わないときは、退場を命じ、受験を無効とする場合があります。

#####

[人体の働きと医薬品]

問6 1

消化酵素に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 唾液腺から分泌される唾液には、デンプンをアミノ酸に分解する消化酵素が含まれる。
- b 胃から分泌されるペプシノーゲンは、胃酸により、タンパク質を半消化するペプシンとなる。
- c 膵液に含まれるトリプシノーゲンは、消化管内で半消化されたタンパク質をさらに細かく消化するトリプシンに変換される。
- d 脂質(トリグリセリド)は、膵液に含まれるエレプシンにより分解され、小腸粘膜より吸収される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問6 2

咽頭、喉頭及び食道に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 咽頭は鼻腔と口腔につながっており、消化管と気道の両方に属する。
- b 喉頭は、咽頭と気管の間にある軟骨に囲まれた円筒状の器官で、軟骨の突起した部分(喉頭隆起)がいわゆる「のどぼとけ」である。
- c 食道は直径1~2cmの管状の器官で、消化液を分泌する。
- d 嚥下の際には、喉頭の入り口にある喉頭蓋が反射的に開くことにより、飲食物が食道へと送られる。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 6 3

呼吸器系に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 気道は上気道、下気道に分かれ、喉頭は上気道に含まれる。
- b 鼻汁は、鼻腔の内壁にある粘液分泌腺から、かぜやアレルギーのときの防御反応としてのみ分泌される。
- c 肺は内部で気管支が細かく枝分かれし、末端はブドウの房のような構造となっており、その球状の袋部分を肺胞という。
- d 肺胞の壁は非常に薄くできていて、周囲を毛細血管が網のように取り囲んでいる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 6 4

循環器系に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 心臓の左側部分（左心房、左心室）は、全身から集まってきた血液を肺へ送り出す。
- b 心臓は心筋でできた握りこぶし大の袋状の臓器で、胸骨の後方に位置する。
- c 心臓から拍出された血液を送る静脈は弾力性があり、圧力がかかっても耐えられる。
- d 四肢を通る静脈では一定の間隔で静脈弁が発達しており、血液の逆流を防いでいる。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 6 5

泌尿器系に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ネフロンは、腎小体と尿細管で構成される。
- b 腎臓は血液中の老廃物の除去のほか、水分及び電解質の排出調節を行っている。
- c 腎臓には内分泌腺としての機能があり、骨髄での血小板産生を促進するホルモンを分泌する。
- d 食品から摂取あるいは体内で生合成されたビタミンDは、腎臓で活性型ビタミンDに転換されて、骨の形成や維持の作用を発揮する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 6 6

目に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 涙液にはリゾチームや免疫グロブリン等が含まれており、角膜や結膜を感染から防ぐ役割がある。
- b 水晶体は、その周りを囲んでいる毛様体の収縮・弛緩<sup>し</sup>によって、遠くの物を見るときには丸く厚みが増し、近くの物を見るときには扁平<sup>へんぺい</sup>になる。
- c 目の充血は血管が拡張して赤く見える状態であるが、結膜の充血では白目の部分だけでなく眼瞼<sup>けん</sup>（まぶた）の裏側も赤くなる。
- d 眼精疲労は、眼筋の疲労や、毛様体の疲労、涙液の供給不足等により生じ、全身症状を伴わない生理的な目の疲れである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 6 7

鼻及び耳に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 鼻腔上部の粘膜にある嗅細胞を、においの元となる物質の分子が刺激すると、その刺激が脳の嗅覚中枢へ伝えられる。
- b 鼻腔と副鼻腔を連絡する管は非常に狭いため、鼻腔粘膜が腫れると副鼻腔の開口部がふさがりやすくなり、副鼻腔に炎症を生じることがある。
- c 副鼻腔に入った埃等の粒子は、粘液に捉えられて、線毛の働きによって鼻腔内へ排出される。
- d 鼓膜まで伝導された音は、鼓膜を振動させ、互いに連結した微細な3つの耳小骨が鼓膜の振動を増幅して、中耳へ音を伝える。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 6 8

皮膚に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 外皮系は、皮膚、皮膚腺、角質の総称である。
- b 皮膚の色は、表皮や真皮に沈着したメラニン色素によるものであるが、毛の色についてはメラニン色素の量による影響を受けない。
- c ヒトの皮膚の表面には常に一定の微生物が付着しており、それら微生物の存在によって、皮膚の表面での病原菌の繁殖が抑えられている。
- d 汗腺には、エクリン腺とアポクリン腺の二種類があり、エクリン腺は体臭腺である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 6 9

骨格系及び筋組織に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 骨の成長が停止すると骨吸収と骨形成は行われず、カルシウムが骨から溶け出し骨密度は低下する。
- b 骨の関節面は、弾力性に富む柔らかい軟骨層に覆われており、衝撃を和らげ、関節の動きを滑らかにしている。
- c 骨格筋の疲労は、乳酸の代謝に伴って生成するグリコーゲンが蓄積し、筋組織の収縮性が低下する現象である。
- d 心臓壁にある筋組織は、消化管壁や膀胱等ぼうこうに分布する筋と同様に、自律神経に支配される平滑筋に分類される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 7 0

脳や神経系の働きに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 脊髄は脊椎の中にあり、脳と末梢の間で刺激を伝えるほか、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合があり、これを脊髄反射と呼ぶ。
- b 脳は、細胞同士が複雑かつ活発に働くため、酸素の消費量は全身の約50%を占める。
- c 自律神経系は、交感神経系と副交感神経系からなり、多くの効果器に対し、これら二つの神経系が支配している。
- d 全身に広く分布する汗腺を支配する交感神経線維の末端では、アセチルコリンが神経伝達物質として放出される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 7 1

薬の有効成分の吸収に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 内服薬の有効成分は、主に胃で吸収される。
- b 鼻腔粘膜の下には毛細血管が豊富なため、点鼻薬の成分は循環血液中に移行しやすい。
- c 坐剤の有効成分は直腸下部の粘膜から吸収されると、肝臓で代謝を受けた後、全身に分布する。
- d 皮膚に適用する医薬品（塗り薬、貼り薬等）の有効成分が皮膚表面から血液中に移行した場合、肝臓で代謝を受ける前に血流に乗って全身に分布する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 7 2

薬の代謝、排泄に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 有効成分が体内で代謝を受けると、作用を失ったり、作用が現れたり、あるいは体外へ排泄されやすい水溶性の物質に変化したりする。
- b 有効成分の体外への排泄経路として母乳中もあるが、その排泄量は微量であるため、乳児に対する副作用の発現の点では重要ではない。
- c 経口投与後、消化管で吸収されて血液中に移行した有効成分は、全身循環に入る前に、門脈という血管を経由して腎臓を通過する。
- d 腎機能が低下した人では、正常の人よりも有効成分の尿中への排泄が過剰となり、血中濃度が速やかに低下する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤



問73

薬の体内での働きに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 循環血液中に移行した有効成分は、多くの場合、標的となる細胞に存在する受容体、酵素、トランスポーターなどのタンパク質と結合し、その機能を変化させることで薬効や副作用を現す。
- b 医薬品が摂取された後、有効成分の血中濃度は上昇し、ある時点でピークに達するが、代謝・排泄<sup>せつ</sup>の速度が吸収・分布の速度を上回ると低下していく。
- c 医薬品の有効成分がわずかでも循環血液中に移行すると、生体の反応としての薬効が現れる。
- d 一度に大量の医薬品を摂取したり、十分な間隔をあけずに追加摂取したりして血中濃度を高くしても、ある濃度以上になると薬効は頭打ちとなり、有害な作用（副作用や毒性）も現れにくくなる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問74

内服用医薬品の剤形及びその一般的な特徴に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般的に、錠剤（内服）は、胃や腸で崩壊し、有効成分が溶出することが薬効発現の前提となる。
- b 口腔内崩壊錠は、固形物を飲み込むことが困難な高齢者や乳幼児でも、口の中で溶かした後に、唾液と一緒に飲み込むことができる。
- c 顆粒剤は、粒の表面がコーティングされているものもあるので、噛み砕かずに水などで飲み込む。
- d カプセル剤は、水なしで服用するとゼラチンが喉や食道に貼り付くことがあるため、必ず適切な量の水（又はぬるま湯）とともに服用する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問75

医薬品の副作用として現れる肝機能障害及び偽アルドステロン症に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品により生じる肝機能障害の主な症状には、全身の倦怠感、黄疸のほか、発熱、発疹、皮膚の掻痒感、吐きけ等がある。
- b 黄疸とは、グロブリンが胆汁中へ排出されず、血液中に滞留することにより生じる、皮膚や白眼が黄色くなる病態である。
- c 偽アルドステロン症は、体から塩分（ナトリウム）と水が失われ、体内にカリウムが貯留することによって生じる病態である。
- d 偽アルドステロン症は、小柄な人や高齢者で生じやすく、原因医薬品の長期服用後に初めて発症する場合もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 7 6

精神神経系に現れる医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 中枢神経系が影響を受け、物事に集中できない、落ち着きがなくなる等のほか、不眠、不安、震え（振戦）、興奮、眠気、うつ等の精神神経症状を生じることがある。
- b 精神神経症状は、医薬品の添付文書に記載されている通常の用法・用量では発生することはない。
- c 無菌性髄膜炎は、医薬品の副作用が原因の場合、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ等の基礎疾患がある人で発症リスクが高い。
- d 医薬品の副作用が原因で軽度の無菌性髄膜炎を経験した人は、同じ医薬品を使用しても再発することはない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 7 7

消化器系に現れる医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 消化性潰瘍とは、胃や十二指腸の粘膜組織が傷害されているが、粘膜組織の欠損は粘膜筋板を超えない状態をいう。
- b 副作用による消化性潰瘍は、自覚症状が乏しい場合もあり、突然の吐血・下血によって発見されることもある。
- c イレウス様症状（腸閉塞様症状）では、腹痛などの症状のために水分や食物の摂取が抑制され、嘔吐がない場合でも脱水状態となることがある。
- d 小児や高齢者のほか、普段から便秘傾向にある人は、イレウス様症状の発症のリスクが高い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 7 8

呼吸器系に現れる医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 間質性肺炎は、気管支又は肺泡が細菌に感染して炎症を生じたものである。
- b 間質性肺炎を発症すると、体内は低酸素状態となり、呼吸困難、空咳（痰の出ない咳）、発熱等の症状を呈する。
- c 医薬品を原因とする喘息は、内服薬にのみ生じ、坐薬や外用薬では誘発されない。
- d 合併症を起こさない限り、喘息の原因となった医薬品の有効成分が体内から消失すれば、症状は寛解する。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問79

循環器系に現れる医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a うっ血性心不全とは、心筋の自動性や興奮伝導の異常が原因で心臓の拍動リズムが乱れる病態である。
- b 息切れ、疲れやすい、足のむくみ、急な体重の増加、咳とピンク色の痰などを認めた場合は、うっ血性心不全の可能性はある。
- c 不整脈は、医薬品の代謝機能の低下によって発症リスクが高まることがあるので、腎機能や肝機能の低下、併用薬との相互作用等に留意するべきである。
- d 医薬品を適正に使用した場合であっても、動悸や一過性の血圧上昇、顔のほてり等を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 8 0

泌尿器系に現れる医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 副交感神経系の機能を亢進する作用がある成分が配合された医薬品を使用すると、膀胱の排尿筋の収縮が抑制され、尿が出にくくなる。
- b 医薬品による排尿困難や尿閉は、前立腺肥大の基礎疾患がある男性にのみ現れる。
- c 医薬品による排尿困難や尿閉等の症状が現れた場合、原因となる医薬品の使用を中止することにより症状は速やかに改善することが多い。
- d 尿の回数増加、排尿時の疼痛、残尿感等の膀胱炎様症状が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

[薬事に関する法規と制度]

問 8 1

次の記述は、法第 1 条の条文である。( ) の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品の品質、( a ) 及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うとともに、( b ) の規制に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の( c ) の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的とする。

	a	b	c
1	有効性	麻薬及び覚醒剤	品質向上
2	有効性	麻薬及び覚醒剤	研究開発
3	有効性	指定薬物	研究開発
4	経済性	指定薬物	研究開発
5	経済性	指定薬物	品質向上

問 8 2

登録販売者及び法に規定する販売従事登録に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。ただし、厚生労働省令で定める書類の省略に関する規定は考慮しなくてよい。

- a 販売従事登録を受けようとする者は、申請者の居住地の都道府県知事に申請書を提出しなければならない。
- b 申請書には、申請者が登録販売者試験に合格したことを証する書類を添えなければならない。
- c 申請者が薬局開設者又は医薬品の販売業者でないときは、雇用契約書の写しその他薬局開設者又は医薬品の販売業者の申請者に対する使用関係を証する書類を添えなければならない。
- d 登録事項に変更を生じたときは、30日以内に、登録を受けた都道府県知事にその旨を届け出なければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 8 3

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 動物の疾病の治療に使用されることが目的とされているものは、法の規制対象外である。
- b 医薬品には器具用消毒薬のように、人の身体に直接使用されないものもある。
- c 日本薬局方に収載されている物は、全て法で医薬品と定義されている。
- d 薬局開設者及び医薬品の販売業者は、不正表示医薬品を販売の目的で陳列してはならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正



問 8 4

一般用医薬品及び要指導医薬品に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 要指導医薬品は、その適正な使用のために薬剤師又は登録販売者の対面による情報の提供及び薬学的知見に基づく指導が行われることを必要とする。
- b 医師等の診療によらなければ一般に治癒が期待できない、がん、心臓病等の疾患に対する効能効果は、要指導医薬品にのみ認められている。
- c 配置販売業は、要指導医薬品の販売は認められていない。
- d 一般用医薬品の効能効果の表現は、一般の生活者が判断できる症状で示されている。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 8 5

毒薬、劇薬及び生物由来製品に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 毒薬については、それを収める直接の容器又は被包に、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が記載されていなければならない。
- b 店舗管理者が薬剤師である場合に限り、店舗販売業者は毒薬又は劇薬を開封販売することができる。
- c 生物由来製品には、植物に由来するもののみを原料又は材料として製造されるものもある。
- d 現在のところ、生物由来製品として指定された一般用医薬品はない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 8 6

一般用医薬品のリスク区分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 第一類医薬品は、その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがあるすべての一般用医薬品が指定される。
- b 第二類医薬品のうち、特別の注意を要するものとして厚生労働大臣が指定するものを「指定第二類医薬品」という。
- c 第三類医薬品は、第一類医薬品及び第二類医薬品以外の一般用医薬品である。
- d リスク区分については、安全性に関する新たな知見や副作用の発生状況等を踏まえて適宜見直しが図られているが、第三類医薬品が第一類医薬品又は第二類医薬品に分類が変更されることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 8 7

法第 5 0 条に基づき、一般用医薬品及び要指導医薬品の直接の容器又は直接の被包に記載されていなければならない事項の正誤について、正しい組合せを選べ。ただし、厚生労働省令で定める表示の特例に関する規定は考慮しなくてよい。

- a 製造販売業者の氏名又は名称及び住所
- b 製造番号又は製造記号
- c 要指導医薬品については「要指導医薬品」の文字
- d 指定第二類医薬品にあつては、枠の中に「指定」の文字

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 8 8

医薬部外品及び化粧品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬部外品には、衛生害虫類（ねずみ、はえ、蚊、のみその他これらに類する生物）の防除を目的とする物がある。
- b 医薬部外品は、化粧品的な<sup>ぼう</sup>効能効果を標榜することができる場合がある。
- c 化粧品を販売する場合には都道府県知事の許可は不要であるが、医薬部外品を販売する場合には、都道府県知事の許可が必要である。
- d 化粧品において、医薬品的な<sup>ぼう</sup>効能効果を表示・標榜することは、一切認められていない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 8 9

保健機能食品等の食品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 食品として販売等されている製品であっても、その成分本質、<sup>ぼう</sup>効能効果の標榜内容等に照らして医薬品とみなされる場合には、無承認無許可医薬品として法に基づく取締りの対象となる。
- b 機能性表示食品は、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、許可又は承認を取得することが必要である。
- c 栄養機能食品の栄養成分の機能の表示に関しては、当該栄養成分を摂取する上での注意事項を適正に表示することが求められる。
- d 特別用途食品（特定保健用食品を除く。）とは、乳児、幼児、妊産婦又は病者の発育又は健康の保持若しくは回復の用に供することが適当な旨を医学的・栄養学的表現で記載し、かつ用途を限定したものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 9 0

薬局に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品を取り扱う場所であって、薬局として開設の許可を受けていないものについては、病院又は診療所の調剤所を除き、薬局の名称を付してはならない。
- b 薬局の管理者は、その薬局の所在地の都道府県知事（その薬局の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）の許可を受けた場合を除き、その薬局以外の場所で業として薬局の管理その他薬事に関する実務に従事する者であってはならない。
- c 薬局において、一般用医薬品を取り扱うためには、薬局の開設許可と併せて店舗販売業の許可も受ける必要がある。
- d 地域連携薬局とは、患者が継続して利用するために必要な機能及び個人の主体的な健康の保持増進への取組を積極的に支援する機能を有する薬局をいう。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 9 1

薬局に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。なお、本問において「薬剤師不在時間」とは、法施行規則第 1 条第 2 項第 2 号で規定されるものとする。

- a 薬局で医薬品の販売に従事する登録販売者は、薬剤師不在時間内に限り、第一類医薬品を販売することができる。
- b 薬剤師不在時間内は、調剤に従事する薬剤師が不在のため調剤に応じることができない旨を当該薬局の外側の見やすい場所に掲示すれば、薬局内に掲示しなくてもよい。
- c 薬剤師不在時間内には、当該薬局の管理を行う薬剤師が、その薬局において勤務している従事者と連絡ができる体制を備えていなければならない。
- d 薬局開設者は、薬剤師不在時間内は、調剤室を閉鎖しなければならない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 2

店舗販売業に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 薬剤師が従事していれば、医療用医薬品の販売又は授与が可能である。
- b 店舗販売業の許可を受けた事業者は、第三類医薬品について、薬剤師又は登録販売者に販売又は授与させなければならない。
- c 第一類医薬品を販売する店舗の店舗管理者は、必ず薬剤師でなければならない。
- d 店舗管理者は、保健衛生上支障を生ずるおそれがないよう、店舗販売業者に対して必要な意見を口頭により述べなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 9 3

配置販売業に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 配置販売業者は、医薬品を開封して分割販売することができる。
- b 配置販売業者は、一般用医薬品のうち経年変化が起こりにくいこと等の基準に適合するもの以外の医薬品を販売等してはならない。
- c 配置販売業者が、購入者の居宅に常備薬として用いられる製品をひと揃<sup>そろ</sup>い収めた「配置箱」をあらかじめ預けておくことは、法上、「陳列」に該当しない。
- d 配置販売業者又はその配置員は、その住所地の都道府県知事が発行する身分証明書の交付を受け、かつ、これを携帯しなければ、医薬品の配置販売に従事してはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 9 4

店舗販売業者が行う、一般用医薬品のリスク区分に応じた情報提供に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 第一類医薬品を購入しようとする者から説明を要しない旨の意思の表明がなくても、その店舗において医薬品の販売に従事する薬剤師が、当該第一類医薬品が適正に使用されると認められると判断した場合には、必要な情報提供をせずに販売することが認められている。
- b 第二類医薬品を販売する場合には、その店舗において医薬品の販売に従事する薬剤師又は登録販売者に、必ず書面を用いて必要な情報を提供させなければならない。
- c 指定第二類医薬品を販売する場合には、その医薬品を購入しようとする者が、禁忌事項を確認すること及び当該医薬品の使用について薬剤師又は登録販売者に相談することを勧める旨を、確実に認識できるようにするために必要な措置を講じなければならない。
- d 第三類医薬品を販売する場合には、購入者から質問等がなくても、その店舗において医薬品の販売に従事する薬剤師又は登録販売者に必要な情報提供をさせることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 9 5

薬局における医薬品の陳列方法に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 購入者の利便性を考慮し、薬効分類が同じである要指導医薬品と第一類医薬品を、区別することなく陳列することができる。
- b 指定第二类医薬品は、「情報提供を行うための設備」から8メートル離れた場所であっても、鍵をかけた陳列設備であれば陳列することができる。
- c 第二类医薬品と第三類医薬品は、混在させて陳列することができる。
- d 一般用医薬品を販売し、又は授与しない時間は、一般用医薬品を通常陳列し、又は交付する場所を閉鎖しなければならない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 6

特定販売に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 特定販売とは、その薬局又は店舗におけるその薬局又は店舗以外の場所にいる者に対する一般用医薬品又は薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬であるものも含む。）の販売又は授与をいう。
- b 特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告するときは、ホームページに、薬局又は店舗の主要な外観の写真を表示しなければならない。
- c 特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告をするときは、ホームページに、現在勤務している薬剤師又は登録販売者の別、その氏名及び写真を表示しなければならない。
- d 一般用医薬品を購入しようとする者から、対面又は電話により相談応需の希望があった場合には、薬局開設者又は店舗販売業者は、その薬局又は店舗において医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師又は登録販売者に、対面又は電話により情報提供を行わせなければならない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 7

次の成分（その水和物及びそれらの塩類を含む。）のうち、「法施行規則第 1 5 条の 2 の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品」について、正しいものの組合せを選べ。

- a デキストロメトルファン
- b カフェイン
- c ブロモバレリル尿素
- d エフェドリン

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 8

濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品を販売する場合、法施行規則の規定に基づき、店舗販売業者が当該医薬品を購入しようとする者に対し、薬剤師又は登録販売者に必ず確認させなければならない事項の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 購入しようとする者が若年者である場合は、その者の年齢及び保護者の同意
- b 他の店舗販売業者等からの当該医薬品及び当該医薬品以外の濫用等のおそれのある医薬品の購入状況
- c 適正な使用のために必要と認められる数量を超えて当該医薬品を購入しようとする場合は、その理由
- d 購入しようとする者の住所

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤



問 9 9

医薬品の広告に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 誇大広告等を禁止する法の規定は、広告等の依頼主だけでなく、その広告等に関与するすべての人が対象となる。
- b 承認前の医薬品については、効能効果を標榜<sup>ほう</sup>しなければ、名称のみ広告することは認められている。
- c 医薬関係者が推薦している旨の医薬品の広告は、事実であったとしても、原則として不相当とされている。
- d 漢方処方製剤等について、使用する人の体質等を限定した上で特定の症状等に対する改善を目的として、効能効果に一定の前提条件を付した「しぼり表現」を省いて広告することは、原則として認められていない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問100

法に基づく行政庁による監視指導及び処分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。なお、本問において、「都道府県知事」とは、「都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）」とする。

- a 都道府県知事は、薬事監視員に医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、帳簿書類を検査させることができる。
- b 都道府県知事は、店舗管理者に薬事に関する法令又はこれに基づく処分に違反する行為があったとき、又はその者が管理者として不相当であると認めるときは、その店舗販売業者に対して、店舗管理者の変更を命ずることができる。
- c 薬剤師及び登録販売者以外の従業員は、薬事監視員の質問に対して、正当な理由なく、答弁しなかったとしても、法に規定された罰則が適用されることはない。
- d 都道府県知事は、店舗販売業者に対し、不正表示医薬品、不良医薬品等について、廃棄、回収その他公衆衛生上の危険の発生を防止するに足りる措置をとるべきことを命ずることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

[医薬品の適正使用と安全対策]

問 1 0 1

一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書等に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回の改訂が義務づけられている。
- b 添付文書は開封時に一度目を通されれば十分なので、保管しておく必要はない。
- c 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。
- d 製造販売業者の名称及び所在地が記載されているが、販売を他社に委託している場合には、販売を請け負っている販社等の名称及び所在地も併せて記載されることもある。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問102

一般用医薬品（一般用検査薬を含む。）の添付文書等の「してはいけないこと」の項に記載される事項に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用検査薬（一般用黄体形成ホルモンキットを除く。）では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が記載されている。
- b 体に吸収されると一部が乳汁中に移行して、乳児に悪影響を及ぼすおそれがあることが知られている成分が配合されている場合、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載されている。
- c 摂取されたアルコールによって、医薬品の作用が増強し、副作用を生じる危険性の増大等が予測される場合、「服用前後は飲酒しないこと」と記載されている。
- d 連用すると効果が減弱して医薬品に頼りがちになりやすい成分が配合されている場合、「長期連用しないこと」「症状があるときのみの使用にとどめ、連用しないこと」等と記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問103

一般用医薬品の添付文書等の「相談すること」の項に記載される事項に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 使用上の注意の記載における「高齢者」とは、およその目安として75歳以上を指す。
- b 「薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人」の項目には、他の医薬品でアレルギーの既往歴があっても、その医薬品によりアレルギー症状を起こしたことがない人は該当しない。
- c 「次の診断を受けた人」の項目には、現に医師の治療を受けているか否かによらず、その医薬品が使用されると状態の悪化や副作用等を招きやすい基礎疾患等が示されている。
- d 「次の症状がある人」の項目には、その一般用医薬品の軽率な使用がなされると状態の悪化や副作用等を招きやすい症状や、その状態等によっては医療機関を受診することが適切と考えられる場合について記載されている。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問104

一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a シロップ剤は、温度変化による変質を防ぐ観点から、開封後は室温での保管が適切である。
- b エアゾール製品の添付文書等には、「保管及び取扱い上の注意」の項目に高圧ガス保安法に基づく注意事項が記載されているが、その容器への表示は不要である。
- c 点眼薬は、開封後長期間保存すると変質する可能性が高いため、複数の使用者で共用し、できる限り早く使い切ることが重要である。
- d 散剤は、冷蔵庫から取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫での保管は不適當である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問105

緊急安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- b A4サイズの青色地の印刷物で、医療機関や薬局等への直接配布、ファックス、電子メール等により情報伝達される。
- c 医薬品、再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な際に作成されるが、医療機器についても作成の対象となる。
- d 一般用医薬品に関係する緊急安全性情報が発出されたことがあり、例えば、葛根湯かつこんとうによる間質性肺炎に関するものがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問106

医薬品の購入者等に対する情報提供に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 購入者等が抱く疑問等に対する答えは添付文書に記載されていることが多く、そうした相談への対応において、添付文書情報は有用である。
- b 添付文書や外箱表示は、それらの記載内容が改訂された場合、すぐにそれらが反映された製品が流通し、改訂前の添付文書等が購入者等の目に触れることはない。
- c 健康に対する一般の生活者の意識・関心の高まりに伴って、医薬品の有効性や安全性等に関する情報に対するニーズが多様化・高度化する傾向にある。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 0 7

医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a サリドマイド薬害事件を契機として、世界保健機関（WHO）加盟各国を中心に、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制（WHO国際医薬品モニタリング制度）を確立した。
- b 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、都道府県が約 3 0 0 0 の医療機関から直接副作用報告を受ける「医薬品副作用モニター制度」としてスタートした。
- c 医薬関係者が医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を厚生労働大臣に報告しなければならないとされているが、実務上は報告書を保健所に提出することとされている。
- d 厚生労働省の健康危機管理業務は、科学的・客観的な評価を行うとともに、情報の広範な収集、分析の徹底と対応方針の弾力的な見直しに努め、国民に対して情報の速やかな提供と公表を行うことを基本としている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正



問108

企業からの医薬品の副作用等の報告制度に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 製造販売業者等が、その製造販売をし、又は承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生等を知ったときは、その旨を定められた期限までに都道府県知事に報告することが義務づけられている。
- b 薬局開設者、医療施設の開設者、医薬品の販売業者又は医師、歯科医師、薬剤師に加え、登録販売者も製造販売業者が行う副作用等の情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 製造販売業者には、医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについて、承認後の一定期間、安全性に関する調査及び調査結果の厚生労働省への報告が求められている。
- d 医薬品の市販後においても、常にその品質、有効性及び安全性に関する情報を収集することが、医薬品の適切な使用を確保する観点からも、企業責任として重要なことである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 0 9

医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品を適正に使用したにもかかわらず、生じた副作用による被害者の迅速な救済を図るための制度である。
- b 健康被害が医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的に判断を要する事項について薬事審議会（旧：薬事・食品衛生審議会）の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて、医療費等の給付が行われる。
- c 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であれば、医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度なものについても給付対象となる。
- d 健康被害を受けた本人又は家族が、給付請求を行うことができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 1 1 0

次の一般用医薬品のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象とならないものの組合せを選べ。

- a 漢方処方製剤
- b ワセリン（日本薬局方収載医薬品）
- c 一般用検査薬
- d 殺菌消毒剤（人体に直接使用するもの）

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 1 1 1

医薬品 P L センターに関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品 P L センターへの相談が推奨される。
- b 消費者が、医薬品又は医薬部外品に関する苦情について、製造販売元の企業と交渉するに当たり、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付け、交渉の仲介や調整・あっせんを行っている。
- c 医療機器に関する紛争処理も、対象としている。
- d 製造物責任法の施行と同時に医薬品 P L センターが、各都道府県において開設された。

- 1 ( a 、 b )    2 ( a 、 c )    3 ( b 、 c )    4 ( b 、 d )    5 ( c 、 d )

問 1 1 2

塩酸フェニルプロパノールアミン ( P P A ) 含有医薬品に関する記述について、(    ) の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

2 0 0 3 年 8 月までに、P P A が配合された一般用医薬品による ( a ) 等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている ( b ) 患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分として ( c ) 等へ速やかに切り替えるよう指示がなされた。

	a	b	c
1	間質性肺炎	糖尿病	ナファゾリン塩酸塩
2	間質性肺炎	高血圧症	プソイドエフェドリン塩酸塩
3	脳出血	糖尿病	プソイドエフェドリン塩酸塩
4	脳出血	高血圧症	ナファゾリン塩酸塩
5	脳出血	高血圧症	プソイドエフェドリン塩酸塩

問 1 1 3

医薬品の安全対策や適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 登録販売者は、一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者として、医薬品の適正使用の推進のための啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- b 薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1か月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- c 薬物乱用に関する啓発は、小中学生に行うと、かえって違法薬物に対する好奇心を刺激することになるため、高校生以上から行うこととされている。
- d 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）により生じるものであり、一般用医薬品によって生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 1 4

次の表は、ある一般用医薬品の乗物酔い防止薬に含まれている成分の一覧である。

1錠中：

成分	含量
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	40 mg
ジプロフィリン	26 mg

この乗物酔い防止薬の添付文書等の「使用上の注意」の項目に記載することとされている事項の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと。
- b 授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること。
- c 排尿困難の症状がある人は、服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること。
- d てんかんの診断を受けた人は、服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 1 5

一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載することとされている成分の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a オキセサゼイン
- b 次没食子酸ビスマス
- c ケイ酸アルミン酸マグネシウム
- d タンニン酸アルブミン

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 1 1 6

一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等と医薬品成分等との関係の正誤について、正しい組合せを選べ。

	基礎疾患等	医薬品成分等
a	心臓病	芍薬甘草湯 <small>しやくやくかんぞうとう</small>
b	糖尿病	アセトアミノフェン
c	高血圧	プソイドエフェドリン塩酸塩
d	肝臓病	メチルエフェドリン塩酸塩

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問 1 1 7

一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「妊婦又は妊娠していると思われる人」（出産予定日 1 2 週以内の妊婦も含む。）と記載することとされている成分等の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アスピリン
- b ヒマン油類
- c エチニルエストラジオール
- d グリチルリチン酸二カリウム

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 1 1 8

一般用医薬品の添付文書等において、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされている成分を選べ。

- 1 アルジオキサ
- 2 イブプロフェン
- 3 ピレンゼピン塩酸塩水和物
- 4 ピリドキシン塩酸塩
- 5 メチルエフェドリン塩酸塩

問 1 1 9

フェニレフリン塩酸塩が配合された一般用医薬品の鼻炎用内服薬の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等について、正しいものの組合せを選べ。

- a 糖尿病
- b 肝臓病
- c 甲状腺機能障害
- d 胃・十二指腸潰瘍

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 1 2 0

ロートエキスが配合された一般用医薬品の制酸薬の添付文書等において、「相談すること」の項目中に記載することとされている対象者の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 下痢の症状がある人
- b 排尿困難の症状がある人
- c 糖尿病の診断を受けた人
- d 心臓病の診断を受けた人

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正